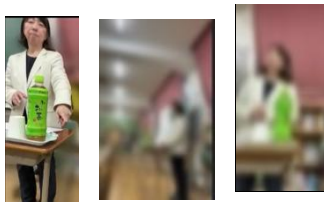


2025.7.17 ステップアップスクール当仁研修会の報告

令和7年7月17日（木）19時分から令和6年年度当仁中学校（ステップアップスクール当仁）の「親の会」教育講演会を下記の通り実施しました。講師は、福岡こども短期大学 教授で、福岡市内の中学校でも長くスクールカウンセラーとして活躍されている武部愛子先生でした。前半は、スクールカウンセラーの視点からの子育てへのアドバイスや、今の子どもたちのとらえ方、発達障がいに向き合うかなど、講話をいただき、後半は先生に具体的な質疑応答で研修を深めることができました。

武部先生は福岡市の教育委員であるとともにその豊富な経験と分かりやすい解説で大変人気のある方です。福岡市のみならず各地での講演は「保護者の会」「人権講演」「民生委員や主任児童員研修」などで、子育てから発達障がいの理解など幅広いお話が聞けたと思っています。変化の激しい時代、従来の子どもに対する見方や接し方だけでは理解できないことが増えてきています。一人で悩まずみんなで考えていければと思っています。当日は氏家校長先生・教職員・学校関係者・保護者・地域・PTA関係などの参加者があり研修を深めることができました。



講演概要

不登校の子どものこだわりの強さ

- ・本人はどこかで傷ついている。本人しかわからない。外から見えにくい何かに迷っている。集団が苦手。4人ぐらいまでなら何とかできるが多いと難しい。何となくにこにこしていると先生から見えづらい。主張しないことでもわかってもらえない。思春期としてはつらい。不安は本人にしかわからない。周囲からの「大丈夫だよ」は意味がない。不安をなくすにはどういえばよいか考える。
- ・用心深さは大切。
- ・社会人になったら大丈夫。もともと誰にでも社会に出るとこだわりは必要。
- ・周囲に自分をわかってもらうことが必要。そのためにも自分を知ることが大事。
- ・今は大人の力が必要。それが親であることが望ましい。

ゲームについて

- ・ゲームのおかげでやれて来たと思う。セルフコントロールは必要。自分でコントロールできるように育てる。

睡眠

ストレスを軽くするのは良質の睡眠。寝る寸前までゲームをするのは避ける。ブルーライ

トが自律神経を妨げる。するなら朝早く起きてする。

- ・横になって遊ばない。起きている間は横にならない。
- ・深い眠りの時に起こさない。目覚ましはスヌーズを使う。
- ・詳しくは睡眠外来に行きデータを取る。

学習

- ・高校は行くところはある。
- ・学力については状況がよくなればついてくる。やりたいことがはっきりしてくれば伸びていく。
- ・紙と鉛筆で文字を書く練習をする。ナンプレやクロスワードなどもよい。
- ・臨床工学士の先生の研修会での「デジタルネイティブの理解」の講演で「とりあえず検索上手、まずは一回検索してから始める」。今の子は自信のないことは「わかりません」と言い、試行錯誤をやらない。学ぶより検索で知識。
- ・「わからないことは丁寧に聞いて自分で考える」
- ・小中は大変。みんなフラットだから。高校からは選べる。
- ・社会に出る前に自分の弱点を知って、助けてもらうか、それを避ける。
- ・周囲から受け入れてもらえる環境対応を身に着けておく。

質問1：不登校のトンネルを早く抜け出すには

- ・今の状況が悪いと思っていても、やっていっているので心配しなくていい。明るく大きく認めていく。この人の通る道なのだと思うと本人の自制を認めていくことが大事。
- ・親として「認めていく」変わらなくていい。今の経験が将来役に立つ。
- ・大丈夫何とかなる。

質問2：「A I 等すぐに検索する」と「わからないことは聞きましょう」の二つは相手がA I か、人間かの違いだけなのではないでしょうか。

辞書や人はA I とは大きく異なる。A I はとりあえずできるが自分で考えることがない。

質問3：A I で自分の心理を分析してもらおうとすごく当たると子供が言う

- ・それは大半の人に当てはまる答えを出すから、占いと同じようなもの。誰にでもあたる。使う人も自信がなかったりするので信じ込む傾向にあるから。

質問4：発達障害で本人が必要ななかったら病院に行つての診断は必要ないのか

- ・タラちゃんやカツオ君・のび太君の例を挙げて説明。
- ・支援級の子供の大半は社会で自立して生活をしていく。いつか支援から離れなければならない。それを考えながら育てる。
- ・学校は対人を学ぶ、付き合い方を学ぶところ。

質問5：学校で生活支援員をしている。クラスでなじめない子に「特別扱いをしている」。先生がいなくなったどうしたらいいか。

・家庭は家庭らしく、学校は学校らしく。家庭と学校はその役割が異なる。家庭は港。学校は社会。いろいろなことが起こるが連携してお互いの姿を伝え連携して違いを共有す

る。どちらも本人の本当の姿。大人への信頼感を高めておく。

質問6：日常の子供との関係でカチンとすることがある。我慢できないときはどうしたらいい。

・自分は親、子供とは違う。原則大人が譲歩する。どうしても我慢できないときはその場を離れる。強いボールは跳ね返りも強い。感情はいら立ちでぶつけるものではない。

質問7：子供もつらいことはわかっているが戦ってしまう。誤ったほうがいいか。

・誤るというより説明する。親子関係は親だけで成り立っているのではない。